

# 東京農業大学稲花小学校

## 学校だより【9月20日】第23号



### 厚木キャンパスを訪問しました

9月12日(木)、農大稲花小学校の1年生はそろって神奈川県厚木市にある東京農業大学厚木キャンパスを訪問しました。体験学習をする稲花タイム「厚木キャンパス自然観察第一回」のためです。丘の上に位置する緑豊かな厚木キャンパスには、農学科、動物科学科、生物資源開発学科、そしてデザイン農学科の4つの学科があります。

1年生の子どもたちは、生物資源開発学科の石川忠教授の指導と6人の学生・大学院生のサポートによる昆虫観察班、同じく生物資源開発学科の山田晋准教授と支倉千賀子非常勤講師の指導による植物観察班に分かれ、早速、観察に出発していきました。大人用の大きく長い網を持ちながら、あるいは、急な階段や斜面を昇り降りしながらの観察です。思わず手を貸したくなっても、ここはグッと我慢して様子を見ていると、子どもたちが意外な逞しさを発揮するのがわかります。

昼食は学食(大学生協食堂)です。大学生と同じ席で、カレーライスを中心としたメニューをいただきました。やや高めの椅子も何のその、楽しく、行儀よく、ちょっと大人っぽい味を楽しんでいました。

キャンパス内では、たくさんの虫を取ったり、植物の葉っぱの形を学んだりしただけでなく、実験中の大学生から手を振って歓迎してもらうなど、うれしい出来事もいろいろ。親切に対応してくださった厚木キャンパス農学部の皆様に感謝しながら、帰校しました。

### 【植物観察コース】



## 【 昆虫観察コース 】



### 元気よく挨拶できるかな

小学校正門で毎朝、子どもたちの安全を見守っている警備員さんや、巡回して下さる警察官に、子どもたちがきちんと挨拶ができているかは、校長としては気になることです。少し前までは、残念ながら挨拶ができない子どもが多かったのは事実です。でも、最近は「おはようございます」と元気に言える子どもたちが増えてきました。きちんと立ち止まって挨拶する子どもがいると、それを見習って…と、友だち同士で良い影響を与え合う様子も見られます。

挨拶だけではありません。マナーが良くなるのも、悪くなるのも、友だちや周りの大人から受ける影響は大きいものがあります。子どもたちが良いマナーを身につけるには、保護者の皆さまのご指導も大切だと考えます。良いマナーもまた、子どもたちの一生の宝物になります。

## 落雷

9月11日(水)の午後、都内各地は発雷と非常に激しい降雨に見舞われました。これは、前線を伴った低気圧の移動によるものです。農大稲花小学校の下校時刻は過ぎていましたが、アフタースクールの子どもたちは、豪雨、そして稲光や落雷にびっくりしたようです。翌朝、「アフターで雷が怖くて泣いた子がいました。」「僕は怖くなかったよ。」「雨が降る前に帰れた。」などという報告(?)がいろいろとあり、子どもたちにとって大きな出来事だったことがうかがえます。

稲花小学校に隣接する第一高等学校・中等部では、当日、背の高いケヤキの木に落雷があったそうです。先生方の適切な判断で、生徒たちは早くから屋内に避難して難をのがれましたが、もし誰かが木の下で雨宿りでもしていたら、と考えると怖くなります。

様々な危険が想定される毎日ですが、情報を十分に集めること、情報の内容を正しく理解し早目に適切な判断することの大切さを感じます。情報不足、知識不足は言うまでもなく、他人任せや、単なる指示待ちでもいけません。また、子どもたちには指示に従うことの大切さも、伝えていこうと考えています。ご関係者からは、この落雷で焦げたケヤキの木の破片をいただきました。小学生のよい教材になりそうです。

## 富士農場へ

9月6日(金)、東京農業大学連合後援会の総会が明治記念館で開催され、連合後援会の予算・決算授業計画の決定などが行われました。この総会とその後の懇親会には農大稲花小学校からの教育後援会役員2名が参加しました。

さらに、連合後援会の役員や関係者による東京農業大学富士農場宿泊見学会が、9月14日(土)~15日(日)に行われ、農大稲花小学校からは役員3名が参加しました。農大稲花小学校の子どもたちは中学年になったら、この富士農場を稲花タイムのために訪問することになっています。富士農場は富士箱根伊豆国立公園の中、静岡県富士宮市朝霧高原に位置しています。

子どもたちと、広々とした富士農場を訪問する日が楽しみです。



2019年9月15日(日) 4時30分頃撮影

校長 夏秋 啓子